

諮問第57号「国民生活基礎調査に係る匿名データの作成について」

諮問文

諮問の概要

別添1 匿名データの作成方法の変更点

別添2 平成19年国民生活基礎調査に係る匿名データの作成方法（案）

別添3 平成19年国民生活基礎調査匿名データのチェックリスト

別添4 平成19年国民生活基礎調査の調査項目と匿名データの提供項目（対平成16年比較）

別添5 平成19年国民生活基礎調査の概要

別添6 平成19年国民生活調査調査票

厚生労働省発統 0820 第 3 号

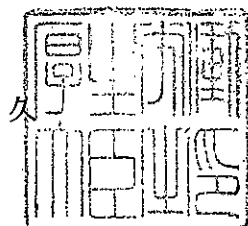
平成 25 年 8 月 20 日

統計委員会委員長

樋口 美雄 殿

厚生労働大臣

田村 憲久



諮問第 57 号

国民生活基礎調査に係る匿名データの作成について（諮問）

標記について、別紙のとおり作成するに当たり、統計法（平成 19 年法律第 53 号）
第 35 条第 2 項の規定に基づき、統計委員会の意見を求める。

諮 問 の 概 要

(平成 19 年国民生活基礎調査に係る匿名データの作成について)

今回、厚生労働省は、平成 19 年国民生活基礎調査（以下、「平成 19 年調査」という。）について、統計法（平成 19 年法律第 53 号）第 35 条第 1 項の規定に基づき、以下のとおり匿名データの作成を行う予定である。

1 平成 19 年調査の匿名データを作成する理由

本調査の匿名データにおいて、平成 16 年国民生活基礎調査（以下、「平成 16 年調査」という。）の匿名データ作成については、過去に答申（「諮問第 34 号の答申 国民生活基礎調査に係る匿名データの作成について」（平成 23 年 4 月 22 日府統委第 52 号））を得ており、また、平成 13 年国民生活基礎調査（以下、「平成 13 年調査」という。）の匿名データ作成についても、その答申内容に沿った匿名化手法に変更がないことから、統計委員会への諮問は不要とされ、現在、両年次のデータを提供しているところ、この度、平成 19 年調査についても同様の匿名化手法を用いつつ、社会情勢の変化や他調査の作成方法等を勘案し、匿名データを作成するものである。

2 匿名データの種類

平成 19 年調査の匿名データでは、平成 16 年調査及び平成 13 年調査と同様に、以下の 2 種類の匿名データを作成する。

(1) 匿名データ A（世帯票、健康票）：

人口、社会統計分野での世帯数の推計分析等を中心とした利用を想定

(2) 匿名データ B（世帯票、健康票、所得票及び貯蓄票）：

世帯の所得及び貯蓄に関する分析等を中心とした利用を想定

3 匿名データの作成方法の変更点

(1) 年齢のトップコーディング

個人の年齢階級の上限について、当該年の人口構成を踏まえ、「90 歳以上」に変更する。

(2) 1% 閾値基準に基づく上限値（グルーピング）の変更

家計支出額、子への仕送り額及び育児費用のトップコーディングを変更する。

(3) 当該年次で把握された調査項目の提供

世帯票の「すぐに仕事につけるか否か」を提供するとともに、健康票の「こころの状態」について、出現頻度の低い項目を統合して提供する。

(4) 平成 16 年調査で提供を見送った項目への対応

世帯票の「手助けや見守りを要する者の状況」の提供を拡大するとともに、健康票の「自覚症状」及び「通院している傷病」を統合せずに提供する。（ただし、「最も気になる傷病」は従来通りの取り扱い。）

また、「就床日数」は「普段の活動ができなかった日数」と表現が変更になり実日数を記入することとなったため、実日数をトップコーディングする。

匿名データの作成方法の変更点

＜平成19年調査の匿名データの作成方法＞

平成16年調査の匿名データの作成方法(平成23年4月答申)を用いつつ、社会情勢の変化や他調査の作成方法等を勘案し、匿名データを作成するものである。



主な変更点	
① 年齢のトップコーディング (答申の「今後の課題」への対応)	個人の年齢階級の上限について、当該年の人口構成を踏まえ、「90歳以上」に変更
② 1%閾値基準に基づく上限値(グルーピング)の変更	家計支出額、普段の活動ができなかった日数のトップコーディングの変更 ※
③ 平成19年調査で把握された項目の取り扱い	<ul style="list-style-type: none"> ・「すぐに仕事につけるか否か」を提供 ・「こころの状態」について、閾値に満たない項目を統合のうえ提供
④ 平成16年調査で提供を見送った項目への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・「手助け、見守りを要する者の状況」を提供 ・「自覚症状」、「通院傷病」の項目を提供

注:

- (1) 家計支出額は、家計支出総額、子への仕送り額及び育児費用でトップコーディング値が変更となった。
- (2) 「日常生活影響の就床日数」は、「普段の活動ができなかった日数」となり、設問が選択肢から実日数記入となったため、閾値基準に基づき作成した。

平成19年国民生活基礎調査に係る匿名データの作成方法（案）

1 基本的な考え方

平成16年国民生活基礎調査（以下、「平成16年調査」という。）に係る匿名データの作成方法に準拠した秘匿措置を講じて作成、提供する。

2 作成する匿名データの構成概要

平成16年調査に係る匿名データの種類と同様に、以下の2種類の匿名データを作成する。

匿名データの種類	匿名データの構成 (接続する調査票)	リサンプリング率 (提供レコード件数 ／調査本体のサンプルサイズ)	拡大乗数	想定される 利用ニーズ
A	世帯票、健康票	約2割 (約4万 / 約23万世帯)	全国一律の拡大乗数を再付与する。	人口、社会統計分野での世帯数の推計分析等を中心とした利用を想定
B	世帯票、健康票、所得票、貯蓄票	約2割 (約5千 / 約2万4千世帯)	拡大乗数は付与しない。	世帯の所得及び貯蓄に関する分析等を中心とした利用を想定

平成19年国民生活基礎調査
匿名データのチェックリスト

匿名データを作成する統計データの名称および年次

統計調査名：国民生活基礎調査

調査年：平成19年

1 地理的情報

- (1) 提供するファイルにはどのレベルの地理的情報が含まれていますか。匿名化のために地理的情報を加工していますか。

①地理情報のレベル : 全国
②地理情報の加工の有無 : 有 無

【平成16年調査と変更なし】

項目：地域ブロック、県・指定都市番号、市郡、地区番号・単位区番号

方法：当該符号を削除し、全国一区分とするとともに、世帯単位にランダムに並び替えを行う。

- (2) 直接的な地理的情報以外に地理的情報が明らかになるような情報がありますか。

地理情報以外の地理的情報 : 有 無

- (3) 地域分析用に詳細な地理的情報を提供していますか。提供している場合、どのレベルの地理的情報が含まれていますか。

地域分析用の地理情報提供の有無 : 有 無

- (4) ある特定の種類の施設であることが明らかになることはありますか。

特定の種類の施設の情報 : 有 無

2 世帯の識別情報

- (1) 世帯の識別情報として考えられるデータ項目を挙げてください。

【平成19年調査変更項目は太字下線】

世帯人員数、住居の室数、住居の床面積、同居していない者の状況、**家計支出総額**、
親への仕送り額、**子への仕送り額**、**育児費用**、医療費世帯総額、総所得、課税等の状

況、掛金、貯蓄現在高、貯蓄減少額、借入金額

- (2) それぞれの識別情報について、どのような匿名化措置を行っていますか。また、母集団に対する割合はどのようになっていますか。

【平成 19 年調査変更項目は太字下線】

項目：世帯人員数

方法：世帯人員が 8 人以上いる世帯を削除。

項目：住居の室数

方法：10 室以上をトップコーディング。

項目：住居の床面積

方法：19.9 平方メートル以下をボトムコーディング、300 平方メートル以上をトップコーディング。

項目：同居していない者の状況

方法：「老人福祉施設入所者」、「社会福祉施設入所者」、「長期入院者」を「入院・入所」に統合する。

項目：家計支出総額

方法：単独世帯の 120 万円以上をトップコーディング、2 人以上世帯の 200 万円以上 をトップコーディング。(平成 16 年は 300 万円以上をトップコーディング)

項目：親への仕送り額

方法：6 万円以上をトップコーディング。

項目：子への仕送り額

方法：16 万円以上をトップコーディング。(平成 16 年は 20 万円以上をトップコーディング)

項目：育児費用

方法：7 万円以上をトップコーディング。(平成 16 年は 6 万円以上をトップコーディング)

項目：医療費世帯総額

方法：単独世帯の 6 万円以上をトップコーディング、2 人以上世帯の 18 万円以上をトップコーディング。

項目：総所得

方法：単独世帯の 1100 万円以上をトップコーディング、2 人以上世帯の 2200 万円以上をトップコーディング。

項目：課税等の状況

方法：単独世帯の 250 万円以上をトップコーディング、2 人以上世帯の 490 万円以上をトップコーディング。

項目：掛金

方法：単独世帯の 40 万円以上をトップコーディング、2 人以上世帯の 80 万円以上をトップコーディング。

項目：貯蓄現在高

方法：単独世帯の 6300 万円以上をトップコーディング、2 人以上世帯の 9000 万円以上をトップコーディング。

項目：貯蓄減少額

方法：単独世帯の 800 万円以上をトップコーディング、2 人以上世帯の 1300 万円以上をトップコーディング。

項目：借入金額

方法：単独世帯の 2400 万円以上をトップコーディング、2 人以上世帯の 4000 万円以上をトップコーディング。

(3) 世帯単位のデータを提供することに対応して特別な匿名化措置を行っていますか。

特別な措置： 行っている 行っていない

【平成 16 年調査と変更なし】

項目：父子世帯

方法：削除

項目：年齢差の大きい夫婦のいる世帯

方法：夫が妻より 20 歳以上、妻が夫より 15 歳以上の夫婦のいる世帯を削除。

項目：年齢差の大きい又は小さい親子のいる世帯

方法：父親と末子の年齢差が 55 歳以上又は母親と末子の年齢差が 50 歳以上の世帯を削除。父親と長子の年齢差が 15 歳以下又は母親と長子の年齢差が 10 歳以下の世帯を削除。

項目：同一年齢階級に4人以上の人員がいる世帯
方法：削除

3 個人の識別情報

(1) 個人の識別情報として考えられるデータ項目を挙げてください。

【平成19年調査変更項目は太字下線】

年齢、公的年金・恩給の受給状況、手助けや見守りの要否、要介護認定の有無、仕事の有無、別居の子の数、職業分類番号、就業期間、1週間の就業時間、1日の片道通勤時間、自立期間、主な介護者の続柄、最も気になる傷病、普段の活動ができなかった日数、悩みやストレスの相談状況、最も気になる悩みやストレスの相談状況、この状態

(2) それぞれの識別情報について、どのような匿名化措置を行っていますか。また、母集団に対する割合はどのようになっていますか。

【平成19年調査変更項目は太字下線】

項目：年齢

方法：5歳階級で提供。90歳以上をトップコーディング。（平成16年は85歳以上をトップコーディング）

項目：公的年金・恩給の受給状況

方法：「福祉年金」、「恩給」を「その他」に統合。

項目：手助けや見守りの要否

方法：手助けや見守りを要する者が2人以上いる世帯を削除。

項目：要介護認定の有無

方法：要介護認定を受けている者が2人以上いる世帯を削除。

項目：仕事の有無

方法：「主に通学で仕事あり」、「家族・通学以外のことが主で仕事あり」を「その他」に統合。

項目：別居の子の数

方法：4人以上をトップコーディング。

項目：職業分類番号

方法：「農業作業者」「林業作業者」「漁業作業者」を「農林漁業従事者」に統合。

項目：就業期間

方法：50年以上をトップコーディング。

項目：1週間の就業時間

方法：80時間以上をトップコーディング。

項目：1日の片道通勤時間

方法：90分以上をトップコーディング。

項目：自立期間

方法：「1月未満」、「1月～3月未満」、「3月～6月未満」、「6月～1年未満」を統合。
(新規提供項目)

項目：主な介護者の続柄

方法：「その他の親族」を「その他」に統合。(新規提供項目)

項目：最も気になる傷病

方法：各傷病を対応する上位区分に統合。

項目：普段の活動ができなかった日数

方法：25日以上をトップコーディング。(平成16年は4日以上をトップコーディング)

項目：悩みやストレスの相談状況

方法：「民間の相談機関」、「テレビ等」及び「01～07以外」を統合。

項目：最も気になる悩みやストレスの相談状況

方法：「民間の相談機関」、「テレビ等」及び「01～07以外」を統合。

項目：こころの状態

方法：「いつも」「たいてい」の回答個数が3個以上を統合。(新規提供項目)

4 誤差（ノイズ）

匿名化措置として、誤差を付加する方法を採っていますか。誤差を付加する方法を採っている場合には、その方法を記載してください。

誤差の付加： 採用している 採用していない

5 リサンプリング

匿名化措置として、リサンプリングをしていますか。リサンプリングをしている場合には、その抽出方法と抽出率を記載してください。

リサンプリング： 行っている 行っていない

※「行っている」場合

【平成 16 年調査と変更なし】

全国一律の拡大乗数とするため、以下の方法でリサンプリングを行う。

抽出方法：

国勢調査区抽出（第一段）：都道府県・指定都市の国勢調査区数に比例するよう、都道府県・指定都市別に国勢調査区をリサンプリング。

世帯抽出（第二段）：第一段でリサンプリングされた国勢調査区から世帯をリサンプリング。

抽出率：全体の約 2 割

6 外部の情報

(1) 個人・世帯を特定できる可能性のある外部の情報は存在しますか。

外部情報： 有 無

(2) 母集団情報として利用している情報は何か。

国勢調査の調査区名簿

行政記録から作成した名簿（行政記録の名称： _____）

その他（具体的に記載 _____）

7 その他

(1) データの一連番号、データの並び順について、何らかの匿名化措置を施していますか。

実施している 実施していない

【平成 16 年調査と変更なし】

データの並び順は、世帯単位に乱数によりランダムに並び替える。ランダムな並びにした後、データの世帯番号を付与する。

(2) サンプリング情報によって、地理的情報以外に特定の地域や集団であることが明らかになる可能性はありますか。

ない。

(3) 提供時期と調査時点とはどの程度の期間が開いていますか。

5 年以上。

(4) そのほか、データを匿名化するに当たり、措置していることがありますか。

ない。

1. 提供項目欄の凡例

- :そのまま提供
- :匿名化措置を講じて提供
- :提供しない

2. 識別情報欄の凡例

- ✓:識別情報として考えられる項目

平成16年				平成19年	
【世帯票】					
<世帯に関する事項>					
地域情報					
都道府県	-	✓		-	
地区番号	-	✓		-	
単位区番号	-	✓		-	
世帯番号	-	✓		-	
世帯人員数	●	✓	8人以上世帯はレコード削除 同一年齢階級に4人以上いる世帯はレコード削除 年の差が大きい夫婦がいる世帯はレコード削除 年の差が大きい(小さい)親子がいる世帯はレコード削除	●	【16年調査と同じ秘匿措置】 8人以上世帯はレコード削除 同一年齢階級に4人以上いる世帯はレコード削除 年の差が大きい夫婦がいる世帯はレコード削除 年の差が大きい(小さい)親子がいる世帯はレコード削除
世帯構造7分類	●	✓	同上	●	同上
世帯類型	●	✓	父子世帯はレコード削除	●	【16年調査と同じ秘匿措置】 父子世帯はレコード削除
住居の状況					
住居の種類	○	✓		○	
建て方	○	✓		○	
居室数	●	✓	10室以上をトップコーディング	●	【16年調査と同じ秘匿措置】 10室以上をトップコーディング
住宅の床面積	●	✓	20㎡未満ボトムコーディング 300㎡以上トップコーディング	●	【16年調査と同じ秘匿措置】 20㎡未満ボトムコーディング 300㎡以上トップコーディング
単独世帯の区分	○			○	
特定の転出者のいる世帯※1	●	✓	老人福祉施設入所者、社会福祉施設入所者、長期入院者を統合	●	【16年調査と同じ秘匿措置】 老人福祉施設入所者、社会福祉施設入所者、長期入院者を統合
家計支出総額及び仕送りの状況					
家計支出総額	●	✓	(単独世帯)120万円以上でトップコーディング (2人以上世帯)300万円以上でトップコーディング	●	(単独世帯)120万円以上でトップコーディング (2人以上世帯)200万円以上でトップコーディング
親への仕送りの有無	○			○	
親への仕送り額	●	✓	6万円以上でトップコーディング	●	【16年調査と同じ秘匿措置】 6万円以上でトップコーディング
子への仕送りの有無	○			○	
子への仕送り額	●	✓	20万円以上でトップコーディング	●	16万円以上でトップコーディング
所得が最も多い者の世帯員番号	○			-	なし(個人部に移動)
乳幼児のいる世帯					
育児費用	●	✓	6万円以上でトップコーディング	●	7万円以上でトップコーディング
<世帯員に関する事項>					
世帯員番号	○			○	
世帯主との続柄	○	✓		○	
性	○	✓		○	

平成16年				平成19年	
出生年月	●	✓	年齢階級で提供する (15歳未満)0~5、6~11、12~14の区分でリコーディング (15歳以上)年齢5歳階級でリコーディング 85歳以上でトップコーディング	●	年齢階級で提供する (15歳未満)0~5、6~11、12~14の区分でリコーディング (15歳以上)年齢5歳階級でリコーディング 90歳以上でトップコーディング
配偶者の有無	○	✓		○	
医療保険の加入状況	○			○	
				—	(世帯部から移動)
公的年金・恩給の受給状況	●	✓	福祉年金、恩給をその他に統合	●	【16年調査と同じ秘匿措置】 福祉年金、恩給をその他に統合
手助け見守りの要否	●	✓	2人以上いる世帯はレコード削除	●	【16年調査と同じ秘匿措置】 2人以上いる世帯はレコード削除
要介護認定の有無	●	✓	「手助け見守りの要否」の秘匿措置を施すことにより、本項目も付随的に秘匿される	●	【16年調査と同じ秘匿措置】 2人以上いる世帯はレコード削除
仕事の有無と就業希望の有無と理由					
仕事の有無	●	✓	主に通学で仕事あり、家事・通学以外のことが主で仕事ありをその他に統合	●	【16年調査と同じ秘匿措置】 主に通学で仕事あり、家事・通学以外のことが主で仕事ありをその他に統合
仕事のない者の状況	○			○	
他の仕事の有無	○				なし
就業希望の有無	○			○	
求職活動の有無	○			○	
希望する仕事の形	○		(専ら意識を問う項目であって、かつ外観から識別される可能性が低いため、提供)	○	
(すぐに仕事につけるか否か)※2				○	追加
すぐに仕事につけない理由	○			○	
公的年金の加入状況	○			○	
別居の子の有無					
別居の子の有無	○			○	
別居の子の数	●	✓	4人以上でトップコーディング	●	【16年調査と同じ秘匿措置】 4人以上でトップコーディング
最も近くに住んでいる子の居住場所	○			○	
勤めか自営かの別と仕事の内容(職業分類)					
勤めか自営かの別	○	✓		○	
勤め先での呼称	○			○	
企業規模・官公庁の別	○			○	
職業分類番号	●	✓	農業作業員、林業作業員、漁業作業員を統合	●	【16年調査と同じ秘匿措置】 項目は16年調査と同じ
就業時期・就業期間・通勤時間					
現在の主な仕事についての時期	●	✓	就業期間で提供 50年以上でトップコーディング	●	【16年調査と同じ秘匿措置】 就業期間で提供 50年以上でトップコーディング
1週間に仕事をした日数	○			○	
1週間に仕事をした時間	●	✓	80時間以上でトップコーディング	●	【16年調査と同じ秘匿措置】 80時間以上でトップコーディング
1日の片道通勤時間	●	✓	90分以上でトップコーディング	●	【16年調査と同じ秘匿措置】 90分以上でトップコーディング
雇用保険の加入状況	○				なし
乳幼児のいる世帯					
乳幼児の世帯員番号	—	✓			なし
乳幼児の日中における保育等の状況	○	✓		○	
手助けや見守りを要する者の状況					

平成16年				平成19年	
世帯員番号	-	✓			なし
日常生活の自立の状況	-	✓		○	追加
自立期間	-	✓		●	追加 「1月未満」「1～3月未満」「3～6月未満」「6月～1年未満」を「1年未満」に統合
主な介護者の状況					
手助けや見守りを要する者との続柄	-	✓		●	追加 「その他の親族」を「その他」に統合
同別居の別	-	✓		○	追加
性	-	✓		○	追加
【健康票】					
<世帯に関する事項>					
地域情報					
都道府県	-	✓		-	
地区番号	-	✓		-	
単位区番号	-	✓		-	
世帯番号	-	✓		-	
医療費世帯総額	●	✓	(単独世帯)6万円以上でトップコーディング (2人以上世帯)18万円以上でトップコーディング	●	【16年調査と同じ秘匿措置】 (単独世帯)6万円以上でトップコーディング (2人以上世帯)18万円以上でトップコーディング
<世帯員に関する事項>					
性	-	✓	世帯票と重複するため、世帯票で提供	-	世帯票と重複するため、世帯票で提供
出生年月	-	✓	世帯票と重複するため、世帯票で提供	-	世帯票と重複するため、世帯票で提供
入院、入所の有無	○	✓		○	
自覚症状に関する事項					
自覚症状の有無	○			○	
自覚症状名	●	✓	出現頻度の低い自覚症状名をその他に統合	○	「その他」に統合せずに提供
最も気になる症状(主症状)	●	✓	出現頻度の低い自覚症状名をその他に統合	○	「その他」に統合せずに提供
主症状の治療状況	○			○	
通院に関する事項					
通院の有無	○	✓		○	
傷病名	●	✓	傷病分類を上位区分に再分類化	○	上位区分に再分類せずに提供
最も気になる傷病(主傷病)	●	✓	傷病分類を上位区分に再分類化	●	【16年調査と同じ秘匿措置】 傷病分類を上位区分に再分類化
最も長く通っている傷病	●	✓	傷病分類を上位区分に再分類化		なし
主傷病の通院期間	○				なし
医療費支出額	-		世帯にまとめて提供	-	世帯にまとめて提供
日常生活影響に関する事項					
日常生活影響の有無	○	✓		○	
日常生活影響の事柄	○	✓		○	
就床日数※3	●	✓	4日以上に統合	○	
(普段の活動ができなかった日数)※2				●	追加 25日以上でトップコーディング
健康意識	○			○	
悩みやストレスに関する事項					
悩みやストレスの有無	○			○	
悩みやストレスの原因	○			○	
最も気になる悩みやストレスの原因(主原因)	○			○	

平成16年				平成19年	
悩みやストレスの相談状況	●	✓	出現頻度の低い相談状況を統合	●	【16年調査と同じ秘匿措置】 出現頻度の低い相談状況を統合
最も気になる悩みやストレスの相談状況	●	✓	出現頻度の低い主原因を統合	●	【16年調査と同じ秘匿措置】 出現頻度の低い相談状況を統合
(こころの状態)※2				●	追加 出現頻度の低い個数を統合
喫煙に関する事項					
喫煙の状況	○	✓		○	
平均喫煙本数	○	✓		○	
健診や人間ドックに関する事項					
健診受診の有無	○			○	
健診受診の機会	○			○	
直近の健診	○			○	
健診指摘の有無	○			○	
医療機関受診指導の有無	○			○	
医療機関受診の有無	○			○	
健康管理に注意を払うようになったか否か	○			○	
健診を受けなかった理由	○			○	
がん検診受診状況	○			○	
【 所得票 】					
<世帯に関する事項>					
地域情報					
都道府県	-			-	
地区番号	-			-	
単位区番号	-			-	
世帯番号	-			-	
世帯区分	-		世帯票から把握可能	-	世帯票から把握可能
生活意識	○	✓		○	
総所得	●	✓	(単独世帯)1100万円以上でトップコーディング (2人以上世帯)2200万円以上でトップコーディング	●	【16年調査と同じ秘匿措置】 (単独世帯)1100万円以上でトップコーディング (2人以上世帯)2200万円以上でトップコーディング
課税等の状況(税金+社会保険料)	●	✓	(単独世帯)250万円以上でトップコーディング (2人以上世帯)490万円以上でトップコーディング	●	【16年調査と同じ秘匿措置】 (単独世帯)250万円以上でトップコーディング (2人以上世帯)490万円以上でトップコーディング
掛金	●	✓	(単独世帯)40万円以上でトップコーディング (2人以上世帯)80万円以上でトップコーディング	●	【16年調査と同じ秘匿措置】 (単独世帯)40万円以上でトップコーディング (2人以上世帯)80万円以上でトップコーディング
<世帯員に関する事項>					
性	-	✓		-	
出生年月	-	✓		-	
所得の種類					
雇用者所得	-	✓		-	
事業所得	-	✓		-	
農耕・畜産所得	-	✓		-	
家内労働所得	-	✓		-	
財産所得	-	✓		-	
公的年金・恩給	-	✓		-	
雇用保険	-	✓		-	なし
その他の社会保障給付金	-	✓		-	
仕送り	-			-	
企業年金・個人年金等	-			-	
その他の所得	-			-	
課税等の状況					
所得税	-	✓		-	
住民税	-	✓		-	
社会保険料	-			-	
医療保険	-			-	
年金保険	-			-	
介護保険	-			-	
その他(雇用保険等)	-			-	
固定資産税	-	✓		-	

平成16年				平成19年	
掛金					
企業年金・個人年金等				-	
【貯蓄票】					
<世帯に関する項目>					
地域情報					
都道府県	-	✓		-	
地区番号	-	✓		-	
単位区番号	-	✓		-	
世帯番号	-	✓		-	
貯蓄に関する事項					
貯蓄の有無	○			○	
金融機関への貯蓄の有無	○			○	
保険料の有無	○			○	
株式等の有無	○			○	
その他の預貯金の有無	○			○	
貯蓄現在高	●	✓	(単独世帯)6300万円以上でトップコーディング (2人以上世帯)9000万円以上でトップコーディング	●	【16年調査と同じ秘匿措置】 (単独世帯)6300万円以上でトップコーディング (2人以上世帯)9000万円以上でトップコーディング
貯蓄残高の増減に関する事項					
貯蓄の増減	○			○	
減少額	●	✓	(単独世帯)800万円以上でトップコーディング (2人以上世帯)1300万円以上でトップコーディング	●	【16年調査と同じ秘匿措置】 (単独世帯)800万円以上でトップコーディング (2人以上世帯)1300万円以上でトップコーディング
減少理由	○			○	
借入金に関する事項					
借入金の有無	○			○	
借入金額	●	✓	(単独世帯)2400万円以上でトップコーディング (2人以上世帯)4000万円以上でトップコーディング	●	【16年調査と同じ秘匿措置】 (単独世帯)2400万円以上でトップコーディング (2人以上世帯)4000万円以上でトップコーディング

※1 平成19年では、「同居していない方の状況」に表現変更

※2 ()書きは、平成19年の新規事項

※3 平成19年では、「普段の活動ができなかった日の有無」に表現変更

平成19年国民生活基礎調査の概要

1 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、保健、医療、福祉、年金、所得等国民生活の基礎的事項を調査し、厚生労働省の所掌事務に関する政策の企画及び立案に必要な基礎資料を得るとともに、各種調査の調査客体を抽出するための親標本を設定することを目的とする。

(2) 調査の周期

昭和61年以降毎年実施(3年ごとに大規模調査を実施し、中間年に簡易調査を実施する)。平成19年は第8回目の大規模調査である。

2 調査の対象及び客体

全国の世帯及び世帯員を対象とし、世帯票及び健康票については、平成17年国勢調査区から層化無作為抽出した5,440地区内のすべての世帯及び世帯員を、介護票については、同地区から無作為に抽出した2,500地区内の要介護者・要支援者を、所得票及び貯蓄票については、前記の5,440地区に設定された単位区から無作為に抽出した2,000単位区¹内のすべての世帯及び世帯員を客体とした。

3 調査事項

世帯票：性、出生年月、世帯主との続柄、配偶者の有無、公的年金・恩給の受給状況、所得を伴う仕事の有無・就業希望の有無、勤めか自営かの別・仕事の内容(職業分類)、現在の公的年金の加入状況等

健康票：入院・入所の状況、自覚症状、治療の状況、通院・通所の状況、傷病名、支払った費用、日常生活への影響、就床日数、健康意識、悩みやストレスの状況、こころの状態、健康診断受診状況等

介護票：調査票の回答者、介護が必要な者の性別と生年月日、要介護度の状況、介護が必要となった原因、居宅サービスの利用状況等

所得票：所得の種類別金額、課税等の状況、生活意識の状況等

貯蓄票：貯蓄現在高、貯蓄の増減の状況、借入金残高

¹ 「単位区」とは、推計精度の向上、調査員の負担平準化等を図るため、一つの国勢調査区を地理的に分割したものである。

4 標本抽出法

(1) 世帯票・健康票の母集団フレーム、抽出方法等

- ・母集団フレーム

平成17年国勢調査の調査区のうち、後置番号²が1又は8で、人口が0でない調査区

- ・層化基準

地域区分：都道府県／政令指定都市

(2) 所得票・貯蓄票の母集団フレーム、抽出方法等

- ・母集団フレーム

第一次：国勢調査の調査区のうち、後置番号が1で、人口が0でない調査区

第二次：世帯票調査区に単位区を設定した名簿

- ・抽出方法

層化二相二段抽出³

一相目一段目の抽出単位 国勢調査調査区（抽出結果は世帯票調査区）

二相目の抽出単位 国勢調査調査区（抽出結果は所得票・貯蓄票調査単位区を含む世帯票調査区）

二段目の抽出単位 単位区（抽出結果は所得票・貯蓄票調査単位区）

- ・層化基準

世帯票・健康票と同じ

(3) 介護票の母集団フレーム、抽出方法等

- ・母集団フレーム

国勢調査調査区のうち、後置番号が1又は8で、人口が0でない調査区

- ・抽出方法

層化二相抽出

一段目の抽出単位 国勢調査調査区（抽出結果は世帯票調査区）

二相目の抽出単位 国勢調査調査区（抽出結果は介護票調査区）

- ・層化基準

世帯票・健康票と同じ

² 「後置番号」とは、国勢調査区の種類を表す番号であり、「1」は一般調査区、「8」はおおむね50人以上の単身者が居住している寄宿舍・寮等のある区域をいう。

³ 「二相抽出」とは、母集団の中から一部の抽出単位を親標本として抽出し、情報を調べたうえで、同じ抽出単位で親標本から標本抽出を行う手法である。ただし、ここでの抽出方法は層化二段抽出とほぼ同等なものと考えてよい。なお、大規模年の所得票と貯蓄票の調査対象単位区は同一なので別々に抽出する必要はない。